

昭和産業株式会社 2027年3月期第1四半期 決算説明会 主な質疑応答

開催日時： 2026年8月19日(水)10:30~11:30

当社出席者： 取締役常務執行役員 コーポレート部門統轄 白井 潔
 グレインプロキュアメント部 次長 岩永 健太郎

質問：製粉カテゴリの売上高が 4.4%減少で、数量効果もわずかにマイナスという結果だった。同業の日清製粉の決算を拝見していると、国内の小麦粉の出荷量が増えていて、こちらは好調だった。御社の製粉カテゴリと日清製粉で明暗が分かれた背景は？

回答：当社は、プレミックスの分野でしっかり販売をして利益を確保したいと考えているが、思ったような販売活動がしきれていない。

ご認識の通り、当社の主要販売先としてコンビニエンスストア向けがあり、そちらの販売状況が必ずしも芳しくないということも受け、プレミックス関係を中心に若干の苦戦が続いている。

また、パスタも前期との比較という点では、前期は米不足の関係で、家庭用を含めて好調な出荷だったが、前期に比べると苦戦というところで、販売数量はマイナスとなっている。

質問：2Q以降の製粉カテゴリの販売数量についてどのようにみているか。

回答：第2四半期以降の目標としてはコンビニエンスストア向けを中心に拡販していくという方針に変わりなく、現在営業活動を進めているところである。

質問：高付加価値商品として米油を例示していたが、米油は高機能とも言えず、これは参入者が少ないゆえに比較的価格競争が激しくないという意味で高付加価値商品としているという理解でよいか。

回答：あくまでも当社の中で高付加価値商品と汎用品との区分であり、従来から取り扱っている大豆・菜種を原料とした油と比較すると米油は機能の点で評価されている面がある。最近ご家庭でも色々ご活用いただくケースも増えており、そういったことを加味して当社内では米油を高付加価値商品と位置付けている。

質問:19 ページの説明で 19 億円と言っていたのは何の数字だったのか教えてほしい。

回答:決算説明会資料の 24 ページに設備投資額と減価償却費の過年度からの推移を棒グラフで表している。こちらの減価償却費の前期実績と当期予想のギャップが 19 億円となっている。主な内容は大型の設備投資が稼働したためであり、従来よりもかなり償却負担が重いという特徴がある、というご説明を申し上げた。

質問:糖質カテゴリが 1Q で若干の微増収になっているが、年間計画に対しての進捗について、今後 2Q 以降の見通しに何かアップデートするところがあれば教えてほしい。

回答:糖質カテゴリについては、近年、当社食品事業の中で最も安定している分野である。東の鹿島工場、M&A によりグループ化した西の中京地区のサンエイ糖化、これらの相乗効果もあり、売上・収益とも安定している状況である。

糖質カテゴリは製造の過程で蒸気とエネルギーを大量に使用する。この蒸気を作る設備であるバイオマス発電ボイラーに 40 億円投資をしたが、この償却費負担が今期から発生しており、その分が糖質カテゴリには大きくかかっている。その中でも若干ながらも粗利が前期比プラスというところで、我々としては順調と見ている。

今期の見込みに対しても順調に推移していると認識しており、また第 2 四半期以降、結果をご報告させていただければと思っている。

質問:償却負担が増えても粗利が増益になったという意味では想定を少し上回っていると推察するが、上回った背景、燃料とエネルギーコスト等の固定費は増えていると思うが、それでも打ち返せた背景について、もう少し補足してほしい。

回答:こちらは中期経営計画の説明の中でお話した通り、糖質の高付加価値品の販売に特に注力をしている。機能性糖質や乳酸菌については、先ほどご紹介したサンエイ糖化も得意としているところなので、これらの販売に注力することでご指摘いただいたような固定費のアップを上回る実績を上げているとみている。

以上